



現代の医療現場では、「チーム医療」が主流になっています。チーム医療とは、医師をはじめ、看護師や薬剤師、臨床心理士などが協力して一人の患者さんをサポートするという医療体制です。メディックの教育体制は、まさにチーム医療ならぬ「チーム受験」という言葉がふさわしいでしょう。英語や数学、理科などの各講師たちはもちろん、担任をはじめとするスタッフたちが一丸となって一人の生徒を全面サポートし、医学部合格へと導きます。メディックの「チーム受験」とはどんなものなのか、中谷代表と4人のカリスマ講師たち、および教務の畠中部長にインタビューしました。

# 「勝者のメンタリティ」を育む

## 小さな成功体験の 積み重ねが、自信を生み 勉強の意欲を高める

—2025年春の医学部医学科最終合格者数は、高等進学塾が149名（うち国公立106名）、メディックが69名（うち国公立11名）にのぼっています。きわめて高い実績をあげている要因は何なのでしょうか。

**中谷** 医学部に合格するためには、「予習をして授業に臨む」→「集中して授業を聴く」→「その日のうちに復習する」→「1週間後の復習テストで定着を図る」というサイクルを徹底するのが最も効果的であると、誰でも分かっています。私は、医学部に合格する生徒には「勝者のメンタリティ」のようなものがあると考えております。それが備わっている生徒は、このサイクルを自ら繰り返すことができます。ところが、メイツクに入ってくる生徒の大部分は、そのメンタリティが不足してい

るのです。恵まれた家庭の生徒が多く、これまで保護者のサポートでうまく乗り切ってきたかも知れませんが、大学合格だけは自力で勝ち取るしかありません。そこで、メディックでは、小さな成功体験を積み重ねて自信を与えることで、自発的に「やるべきことをやりきる」メンタリティを育むことに力を入れています。それが高い合格実績に結実しているのです。

—具体的には、どのようにしてそのメンタリティを育むのですか。

**畠中** 入塾時点で、それまで頑張つて勉強した経験のない生徒は、学習計画を立てさせても、今日は何をやることで勉強すればいいのか、それを考へること自体が苦手なケースが少なくありません。どの時間に何をやるのか、いわゆる交通整理をするのが、担任である教務スタッフの役割です。宿題はすべて解き、復習テストは満点を目指すのが理想ですが、それが厳しい生徒もいます。その場

合は、思い切って宿題の負担を減らしたり、復習テストも最低限この部分だけはできるようにして臨もうとアドバイスしたりなど、勉強量の調整・管理も行います。

**中谷** 今の話のように、一人ひとりにきめ細かく手をかけることが、小さな成功体験を生み出します。例えば、苦手科目だが一部分だけでも頑張って勉強したら、復習テストで正解できたとなれば、次は別の部分も勉強してみようという意欲が湧きます。今まで勉強した経験のない生徒が、長時間机に向かえただけでも自信が生まれます。

## 長時間の自習を義務づけ 自習の内容・方法も スタッフが戦略的に管理

**岸本** 生徒が声を揃えて言うのは「現役のときは受験を舐めていた。あの程度の勉強時間で合格するはずがなかった」ということです。メディックでは毎日、16時から21時35



英語科専任講師  
**三浦 雄一** 先生

数学科専任講師  
**岸本 尚明** 先生

MEDiC教務部長  
**畠中 大典** 先生

MEDiC代表  
**中谷 臣貴** 先生

理科専任講師  
**中川 淳** 先生

理科専任講師  
**山本 心也** 先生

